



日本聖書神学校 学 報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16 ・ ☎ 03-3951-1101 ~ 2 ・ Email: jbts@jbts.ac.jp

2022年9月10日

第170号

発行人 神保 望

【後援会献金口座】

郵便振替:

00110-3-6435

加入者名:

学校法人聖経学園

日本聖書神学校



【巻頭言】

共有された祈り

教授 小林祥人

今号の内容

巻頭言	1
後援会活動報告	2
「総合演習」開設	3
決算報告	3
学事報告・個人消息	4

教会の中にはよく「立派なお祈り」というのがあります。あれって一体何でしょうか。「祈り」は人からの評価の対象でしょうか。イエスの地上での最後の言葉は「祈り」の言葉でした。あれは詩編22編でした。「詩編」は簡単にいうと「祈祷文」です。イエスの最後の祈りはどんなだったでしょう。詩編という文学については、どこかでルターが「詩編を読めば旧約すべてを読んだようなもの」と言っていたと思います。それは些か行き過ぎだったとしても、確かに詩編の中には旧約聖書を構成する多くの要素が集約されたような形になっています。

イエスの十字架上の祈りは22編ですが、この詩編が用いられた理由は、なかなかうまく説明されていません。そもそも「なにゆえ私を見捨てたのか」という、学問的には「神義論」、世俗的には「神様に向かってなんだ」という若干不敬虔をにおわせる言葉を冒頭に据えるこの作品が用いられるのも、奇妙な話です。福音書記者の間でさえ、扱いに困ったのか、ルカでは他の詩編(35編)にすげかえられています。「結局この詩編は神賛美で終わるのだから、イエスは神を賛美するつもりだったのだ」という説明がしばしばなされますが、それでは「なぜ22編なのか」という問いへの答えにはなっていません。

詳細な釈義はできませんが、この詩編の前半は「嘆き」、より正確には「嘆願」となっています。それもしくは「嘆願」は「信頼」でもあります。相手を信頼しなければ、願い求めたりするはずがありません。確かに、最初の一言は過激ですが、それが神に向けられている限りにおいて、神への信頼を含んでいると考えてよいでしょう。この信頼の中で語られるのは、イスラエルが辿ってきた歴史ともいえるべきでしょう。個人の詩編の類型を取りながらも、「私の先祖は」と言って振り

返るのは名もなき人々の苦難と(詩編の本当の作者はわかりません)、神による救済の出来事でした。

多分、この詩編は多くの世代によって大いに用いられ、最後に現在のよう形になったのでしょう。しかし新約時代には、イエスの叫びが詩編だとは誰も気づかなかったところからも、どうやら既に「埃を被った骨董品」のようなものに成り下がってしまっていたようです。しかし「祈り」というのは時々取り出されて鑑賞され、またしまっておかれるような骨とう品ではありません。普段から肌身離さず用いられ、時には傷や凹みや手垢がつくような実用品です。詩編と呼ばれる祈祷文はどれでもそうでしょうが、きっとそのような歴史を経て今日のような形になったのでしょう。そして、そこにはイスラエルと神との対話の歴史が反映しています。イエスは、イスラエルの民が辿ってきた救いの願いと体験、それに伴う「共有される祈り」というものを掘り起こしたのではないのでしょうか。様々な時代の人々の、それぞれの場にあつての精一杯の想いが、ここに込められてもいるからこそ、イエスがご自分の祈りとしたのでしょう。

祈りは「共有」されるべきものです。過激で、不整合で、今日の類型論では説明のできない詩編。だからこそこえってそこにイスラエルの苦難が投影されているのでしょう。もしここに仮にイエスのオリジナル詩編などというものが展開されていたら、祀り上げられる英雄伝ならそのほうがかっこよかったかもしれませんが、それではイエスは誰も祈りを共有しなかったことになるでしょう。詩編だからこそ、人はその祈りに連なることができるのかもしれませんが。人があらゆる時代の様々な苦難に共感できる余地というものをイエスが残してくれたと同時に「祈り」そのものについても考えさせてくださっていると思います。

後援会活動報告

◆創立76周年記念の集い

新型コロナウイルス感染症の影響で二年間二回に渡って中止せざるを得なかった日本聖書神学校の創立記念の集いですが5月15日(日)午後4時より三年ぶりに礼拝堂で対面によって開催いたしました。

美浜教会の澤崎弘美牧師(24期)を説教者としてお迎えしての礼拝、そして後援会から神学生に対して支給される奨学金の支給認定式によって11名の神学生に奨学金の授与式が行なわれました。

1946年に創立された日本聖書神学校は今年76周年を迎えました。日本聖書神学校の76年の歴史は、草創期に福音の宣教者を輩出する神学校の必要性を切望された先生方の気概と

祈り、それに続かれた数多の教授陣のひたむきな努力、そして神学校から宣教の現場へと送り出されて行った伝道者、牧師の皆様、さらに日本聖書神学校を憶えて支え続けてくださった全国の教会と信徒の皆様のお祈りによって刻まれて来ました。すべては生きて働いてくださる主なる神様のお導き、恩寵と心から感謝いたします。

日本聖書神学校の76年の歴史は決して順風満帆なものではなくその経営、運営の面ではむしろ困難の方が多く、それは黎明期から現在、そしてこれからも続いて行くことは避けられないことと思われまます。

76年目を迎える今年、三月に6名の卒業生を福音宣教の現場に送り出し



ましたが期せずして今年の6番目の卒業生は日本聖書神学校の760人目の卒業生でした。従って日本聖書神学校は創立以来76年の間に、多い年少ない年こそありますが、平均すれば毎年10名の伝道者を派遣し続けて来たこととなります。これからも福音宣教の伝道者を養成する日本聖書神学校の働きの大切さを憶えて引き続きお祈りお支えをお願いいたします。

◆献身志願者の集い



2012年に日本聖書神学校が企画し同窓会と後援会がお手伝いする形で始められた献身志願者の集いは今年で11回目を迎えました。献身志願者の集いもコロナ禍の影響を受けて一昨年は対面とZoomを併用する形での開催、昨年はZoomのみのリモート開催でしたが中止することなく開催し続けることが出来ました。今年は7月17日18日の二日間、神学校で対面の形で開催したいという思いで準備を進めて来ましたが7月に入ってから感染者数が急増したため開催を17日(日)一日に短縮しての開催となりました。今年もコロナ禍での開催で参加者が与えられるか懸念していましたが、皆様のお祈りのお陰で6名の参加者が与え

られました。

7月17日午後4時から総合司会の小河由美子牧師(祖師谷教会・49期)によって集いが始まり、柳下教務部長のオリエンテーションに続き、開会礼拝では神保校長により「異邦人への福音」と題して説教がなされました。続いて「献身の喜び」について加太典子神学生(4年)の証と飯田平和牧師(男鹿教会・69期)のリモート中継による奨励によって励ましの言葉が語られました。「御言葉・音楽・静思のとき」では、本校講師の相田南穂子先生のオルガンと佐野恵子姉(目白教会信徒)の聖書朗読に耳を傾け静思の時を過ごしました。次に後援会の村上信男兄(小石川白山教会信徒)から牧師への尊敬の気持ちと献身者を生み出す教会の喜びについて、又、菊池公平後援会会長(目白教会信徒)から伝道者は神からの祝福と素晴らしい人生が約束されている仕事であるとの激励と神学校への招きの言葉が語られ第1部が終了しました。

夕食後の第2部では参加者が二つの

グループに分かれて、それぞれ教授、先輩牧師、神学生と共に懇談の時を持ち、参加者からの質問に答える形で和やかな雰囲気の中、自由な意見交換の時を過ごしました。コロナ禍にあって今年の「献身志願者の集い」も様々な不安と困難の内に開催されましたが主のお導きによって参加者が与えられ豊かな交わりの集いを開催することが出来ました。皆様のお祈りに心から感謝いたします。

毎年参加された献身志願者の中から神学校への入学者が与えられています。願わくは今年も参加して下さった方々が召命感を得て神学校に入学され、伝道者の道へと進まれますように。

(文責：菊池公平後援会長)



「総合演習」開設 —神学と教会の実践をつなぐために—

社会の中に立っている教会での語りやそこにおける行動は、牧会者にとって深い聖書の理解と神学的根拠に裏打ちされたものであるはずで、聖書に根差す神学の学びと、教会や社会における言葉や行動がしっかりと結びつき、どこにあっても福音を生きる牧会者を養成するために、教授会では2023年度より、4年間の教育課程を通して、多様なアプローチをもって、しかし一貫性をもって、神の求めておられる人間・被造物の尊厳を学んでいく新しい講座を設けることとしました。

新設講座の名称を「総合演習キリスト教信仰と人間の尊厳—神学と教会での実践をつなぐために」とし、基本的には2022年までの既存科目を生かしつつ、学年ごとの学びの中でカリキュラムを再構成することとしました。

この講座の主たる狙いは、聖書から社会、また、自分たち自身を読むことによって、社会、そして教会自身のうちにある差別の実相を知り、そこから福音によって解放されていく道を求めることにあります。4年間の構成を、1年：聖書の可能性と伝統的解釈の出会い、2年：社会の中での宣教の場に身を置くことによる学び、3年：教会論への展開、4年：教会の実践と聖書の読みの再統合としています。総合演習Ⅰ「聖書の読み方」では聖書の中でその「差別的な表現」が問題な箇所や、その思想が暴力的であったり差別の源になるなどして現代の人権感覚では問題になる箇所を、どのように読み解くことができるかを試みます。Ⅱ「現場実習」は従来フィールドスタディとして設定していた科目の名称変更で、神

学生たちが各自の関心に従って教会が世に仕える場所で実践的な学びをします。Ⅲ「教会の職務と実際」は従来の設置科目「教会の職務」を踏襲し、その後半に各教派の実際を分かち合う時間を設け、教会の実相がリアリティをもって感じられるようにします。Ⅳ「聖書から教会を読む、教会から聖書を読む」は現場に生きる教役者たちから教会の在り方、そこにかかわる牧会者の姿を学びます。

教授会が考える神学教育の三本柱「聖書に聴き、謙虚に学び続ける伝道者」「祈って道を切り拓いてゆく伝道者」「隣人との出会いに開かれ社会に向き合う伝道者」養成のため、総合演習が豊かな学びの機会となるようお祈りください。

(文責：柳下明子教務部長)

決算報告

同窓生、諸教会の皆様には日本聖書神学校のためにお祈りいただき、コロナ禍にも関わらず学校運営に多くの献金を捧げてくださり、深く感謝いたします。

2021年度の学校法人会計は収支が前年度比約257万円改善し、借入金の返済も予定通りおこなうことができました。収益事業会計は施設利用料収入が前年度比約374万円増加、12月より開始した駐車場賃貸は約74万円の新たな収入となりました。年度末には預り保証金の引当金の積立を1500万円おこない、資産総額に対する負債総額の比率は僅かですが改善しました。負債比率は今後も改善の必要はありますが、順調に返済をおこなっており徐々に改善されると考えています。

現在理事会・合同委員会では安定した学校運営のため、老朽化したテナントビルの問題等様々な課題の検討を続けております。

昼は働き夜学ぶ、召命を受けた学生のために日本聖書神学校は学校設備や研究環境を充実させ、この地で存続し

ていく必要があります。引き続き皆様のお祈りとお支えをお願いいたします。(文責：松脇達朗総務部長)

学校会計貸借対照表

2022年3月末			
資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金・預金	63,281,481	短期借入金	18,660,000
未収入金	857,398	未払金	10,455,414
収益事業未収金	0	前受金	120,000
商品	508,277	授業料前受金	546,000
立替金	99,872	入学金前受金	120,000
固定資産		施設設備費前受金	40,000
有形固定資産		預り金	463,862
土地	140,831,000	仮受金	0
建物	429,148,205	固定負債	
建物付属設備	4,472,380	学校債	46,390,000
構築物	2,875,192	長期借入金	154,045,000
器具・備品	5,654,352	退職給付引当金	0
図書	130,879,587	長期未払金	0
特定資産			
学校債引当特定資産	46,390,000		
奨学金引当特定資産	28,180,468		
その他の固定資産		純資産の部	
電話加入権	32,000	基本金	1,074,986,191
収益事業元入金	162,062,840	聖年度繰越超過額	-290,553,415
資産の部合計	1,015,273,052	負債・純資産合計	1,015,273,052

学校会計資金収支計算書

2022年3月末			
収入の部		支出の部	
学生等納付金収入	7,523,940	人件費支出	42,166,438
手数料収入	190,700	教育研究経費支出	3,304,171
寄付金収入	2,540,943	管理経費支出	16,828,998
後援会寄付金収入	14,050,000	借入金等利息支出	2,017,856
補助活動・収益事業収入	27,251,152	借入金等返済支出	32,650,000
受取利息・配当金収入	1,444	備品支出	732,802
雑収入	619,200	図書支出	1,222,081
前受金収入	-25,000	資産運用支出	48,070,054
前期未収収益事業未収金収入	810,094	前期未収収益事業未収金支出	52,394,019
その他の収入	163,440,241	その他の支出	9,864,027
資金収入調整勘定	-826,277	資金支出調整勘定	-2,827,780
前年度繰越支払資金	54,127,710	次年度繰越支払資金	63,281,481
収入の部合計	269,704,147	支出の部合計	269,704,147

収益事業会計貸借対照表

2022年3月末			
資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金・預金	49,634,923	短期借入金	1,320,000
商品	1,276,759	未払金	564,487
未収入金	35,200	前受金	3,960,000
繰延税金資産	1,977,990	預り金	203,254
		リース債務(1年以内)	0
		未払消費税	3,043,200
固定資産		法人税等充当金	21,987,100
土地	58,990,000	学校会計未払金	0
建物	203,319,903		
建物付属設備	10,794,610	固定負債	
構築物	7,643,657	長期借入金	760,000
器具および備品	4	預り保証金	209,800,000
リース資産	0	リース債務	0
電話加入権	40,000		
預かり保証金特定預金	78,805,868		
		純資産の部	
		収益事業元入金	162,062,840
		繰越利益剰余金	8,818,033
資産の部合計	412,518,914	負債・資本の部合計	412,518,914

収益会計損益計算書

2022年3月末			
収入の部		支出の部	
店舗賃借料収入	77,640,000	人件費	8,298,544
施設設備利用料収入	20,129,497	一般管理費	11,385,121
校舎賃借料収入	47,520,000	租税公課	22,279,700
出版物売上	253,893	減価償却費	12,379,756
駐車場賃貸料	749,759	学校会計寄付金	22,573,152
受取利息	976	支払利息	10,200
		特別損失	0
		法人税等	21,907,503
		当期純利益	47,460,149
収入の部合計	146,294,125	支出の部合計	146,294,125

Diary 学事報告

2022年4月～8月

- 4月1日 入学始業礼拝、説教「十字架への道」神保望校長。新入生14名(正科生5名、聴講生9名)入学。教授就任式(小林祥人教授)。
- 4月1日 学報(169号発行)
- 4月4日 前期授業開始
- 4月6日 教授会(第1回)
- 4月6日 学生自治会総会
- 4月11日 図書館運用委員会
- 4月18日 理事会(第274回)
- 4月27日 学生自治会ホームルーム
- 5月6日 教授会(第2回)

- 5月9日 創立記念日
- 5月15日 創立76周年記念の集い
- 5月16日 後援会役員会
- 5月16日 献身志願者の集い準備会
- 5月17日 同窓会常任役員会・全国支部長会議
- 5月30日 理事会(第275回)
- 5月31日～6月2日 ペンテコステ立証祈禱会
- 6月6日 図書館運用委員会
- 6月13日 実習教会牧師との懇談会
- 6月24日 教授会(第3回)
- 6月27日 理事会(第276回)
- 6月27日 評議員会(第221回)
- 6月27日 同窓会常任役員会
- 7月4日 献身志願者の集い準備会

- 7月17日 献身志願者の集い、参加者6名
- 7月21、22、25日 精神医学特講
- 7月21、22日 前期補講日
- 7月25、27日 前期試験日
- 7月26、28日 牧会的ケアを学ぶためのワークショップ(講師:藤崎義宣先生)
- 7月29日 教授会(第4回)
- 7月29日 卒業論文中間発表会
- 8月8日 献身志願者の集い反省会
- 8月10日 同窓会常任役員会・全国支部長会議
- 8月22～24日 卒業生研修会(テーマ「地域に根ざす教会2」)、同窓会総会、於福岡県北九州市等

個人消息

■ 神保望校長

- 4月17日 ベテル教会・牧師就任式に出席(祝辞)
- 4月30日 宣教協力学校協議会に出席
- 5月13日 東京教区・常置委員会に出席
- 5月14日 学生寮・避難訓練に参加・新入寮生歓迎会に出席
- 5月15日 信濃町教会・牧師就任式に出席(祝辞)
- 5月17日 同窓会・全国支部長会議に出席
- 5月22日 武蔵野教会で講演
- 5月25日 学生寮・消防用設備定期点検に立ち会い
- 5月29日 須賀川教会で説教
- 5月31日・6月1日 東京教区総会に出席
- 6月12日 柿ノ木坂教会・特別伝道礼拝で説教
- 6月13日・14日 日本基督教団・新任教師オリエンテーションに出席
- 6月19日 岩本教会・牧師就任式に出席(祝辞)
- 6月25日 日本宣教会(JSM)に出席
- 6月26日 牛久教会・牧師就任式に出席(祝辞)
- 7月10日 北千住教会・伝道師就任式に出席(祝辞)
- 7月24日 長生教会・牧師就任式に出席(祝辞)
- 7月31日 横須賀上町教会で説教(伝道師就任祝辞)/茅ヶ崎堤伝道所・伝道師就任式に出席(祝辞)
- 8月10日 同窓会・全国支部長会議に出席
- 寮監としての業務を行い、校長として理事会、評議員会、教授会、人事委員会、図書館運用委員会、後援会役員会、献身志願者準備委員会に出席
- その他適宜面接・人事相談・学生面接を担当して執務執行

■ 荒瀬牧彦教授

- 4月3日 カンバーランド長老教会(CPC)

田園教会牧師就任式

- 4月23日 実践神学会運営委員会
- 7月9日 日本クリスチャン・アカデミー共同研究「コロナ後の教会の可能性」座長
- 7月16日 アメリカ・カナダ賛美歌学会大会(於ワシントンDC)に日本賛美歌学会代表として参加
- 7月30日 CPC日本中会宣教フォーラム「主の招く声」で日本聖書神学校紹介を担当
- 8月16日 『礼拝と音楽』編集委員会
- CPCあさひ教会牧師としての執務。その他、CPC日本中会運営委員・教職委員長・アジア宣教委員・礼拝書委員、日本聖書神学校理事・評議員・同窓会役員・キリスト教研究所所長、日本賛美歌学会運営委員、御茶ノ水スタンディング呼びかけ人として活動
- 『礼拝と音楽』194号「賛美歌創作の実際 作詞家と作曲家の往復書簡」執筆

■ 小林祥人教授

- 日本基督教団取手伝道所牧師としての執務執行

■ 菅原裕治教授

- 東京聖三一教会牧師としての執務執行
- 日本聖公会管区共通聖職試験委員会委員長を継続(2022年度秋期試験を監修)
- 日本聖公会東京教区聖職試験委員会委員長を継続(2022年度試験を監修)
- 日本聖公会第64(定期)総会(5月30日～6月2日)書記長
- 日本聖書神学校図書館長、評議員としての執務執行

■ 古谷正仁教授

- 4月15日 青山学院横浜英和中学校1年生教会見学にて講演(第1回)
- 4月20日 青山学院横浜英和小学校イースター礼拝説教
- 4月22日 青山学院横浜英和中学校1年生教会見学にて講演(第2回)
- 4月30日 林間つきみ野教会川浦弥生教師就任式司式
- 5月3～5日 神奈川教区リフレッシュ

@かながわ 2022 参加

- 5月12日 青山学院横浜英和同窓会聖書研究会
- 5月29日 厚木上教会説教
- 6月8日 青山学院横浜英和小学校キリスト教講座にて講演
- 6月9日 青山学院横浜英和同窓会聖書研究会
- 6月10日 青山学院横浜英和小学校1年生教会見学にて講演(第1回)
- 6月12日 三田教会嶋田順好教師就任式司式
- 6月17日 青山学院横浜英和小学校1年生教会見学にて講演(第2回)
- 6月21日 青山学院横浜英和同窓会聖書研究会
- 6月25日 神奈川教区総会
- 6月26日 川崎境町教会宮澤恵樹教師就任式司式
- 6月4～5日 日本基督教団常議員会陪席
- 7月10日 茅ヶ崎恵泉教会越智馨教師就任式司式
- 7月17日 横浜上倉田教会栗原道子教師就任式司式
- 7月24日 教区オリエンテーションにて発題
- 7月29日 日本基督教団常議員会陪席
- 7月31日 横須賀上町教会杉野信一郎教師就任式司式
- 8月19日 故佐川眞弓教師告別式出席
- 8月29日 日本基督教団常議員会陪席
- 日本基督教団蒔田教会牧師としての教務遂行
- 神奈川教区総会議長としての執務執行
- 日本聖書神学校神学校人事委員としての執務執行
- 社会福祉法人日本水上学園理事、学校法人敬愛学園元住吉こぼと幼稚園理事、学校法人横浜英和学院評議員としての業務遂行

■ 柳下明子教授/教務部長

- 日本聖書神学校教務部長、理事、評議員、日本基督教団番町教会主任担任教師としての執務執行